研　究　業　績

# 死にゆく患者の心理段階と看護婦の態度との関連

## ―事例によるアンケート調査をもとに―

厚生連高岡病院２病棟５階
山岸　由美，村本　昭子，夏野　恭子
藤田美喜子，東海　洋子，小林　絹子

## はじめに

近年，「患者の権利」，「生命の質」が見直され，死にゆく患者のケアに対する関心が高まり，話題に取り上げられている。人生の総決算をする患者やその家族と深い信頼関係を築いてゆき，身体的，精神的，社会的必要を満たすために配慮することが看護婦の大きな役割となっている。

しかし，死にゆく患者と接することは，精神的に緊張が高まり，患者にとって十分な配慮ができず，看護婦は，逃避的な態度をとる傾向にあると思われる。

当病棟では，ターミナルの段階にある患者の心理状態の理解や，訴え，行動の分析が，不十分なため，不安や戸惑いを持ちながら看護していると思われる。そのため，患者は，精神的安定が得られず，いっそう不安や苛立ち，孤立，反発などの反応が多くなる。

E・キューブラー・ロス[1]は，「看護婦から，理解され，世話をされ，僅かな時間をさいてもらえる患者は，まもなく癇癪を起こす必要がなく怒りからくる要求を減らすだろう。」と言っている。

今回，ターミナル患者の希望，不安，怒り，抑鬱，受容の心理段階において，当病院での看護婦の態度が受容的か非受容的かを知るために，患者の心理段階を基に状況の場面設定を行い，看護婦の態度（逃げ，あきらめ，受け入れ，引き受け）のアンケート調査を行った。その結果，患者の心理段階によって看護婦の態度に違いがあることが判明したので，その傾向を報告する。

### Ⅰ．研究期間

平成７年４月24日～平成７年９月30日

### Ⅱ．研究方法

１．調査期間　　平成７年５月15日～
　　平成７年５月25日
２．調査方法　　無記名質問紙法
３．調査内容　　死にゆく患者の心理段階（資料１参照）をもとに，３事例場面設定する。患者の状況に対する看護婦の対応を４つの態度（資料２参照）に分類し，回答を求める。

### Ⅲ．分析方法

無記名質問紙法をもとに死にゆく患者の５つの心理段階ごとの看護婦の態度を集計しｔ検定を用いて分析する。

## Ⅳ．対　　象

当病院のターミナルケアに携わっている看護婦105名

## Ⅴ．結　　果

1．調査用紙の回収率は95％で，有効回答率は100％であった。

2．患者の心理状態における看護婦の態度の違い（表１参照）

希望の段階；全体的に受容的態度が63.7％と高い。

引き受けの態度が35.1％と高く有意差を認めた。

非受容的態度（36.3％）のあきらめの態度が９％と低く有意差を認めた。

逃げの態度が27.3％と高い。

不安の段階；全体的に非受容的態度が55％と高い。

引き受けの態度が13.6％と低く有意差を認めた。

怒りの段階；全体的に受容的態度が56.1％と高い。

受け入れの態度が34.5％と高く有意差を認めた。

抑鬱の段階；全体的に非受容的が62.7％と高い。

逃げの態度が40.1％と高く有意差を認めた。

＜表１＞患者の心理プロセスにおける看護婦の態度の違い

| 看護婦の態度＼患者の心理 | | 希望の段階 | | 不安の段階 | | 怒りの段階 | | 抑鬱の段階 | | 受容の段階 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 非受容的態度 | 逃げの態度 | 27.3 | 36.3 | 23.6 | 55.0 | 17.6 | 43.9 | * 40.1 | 62.7 | 17.3 | 30.6 |
| | あきらめの態度 | * 9.0 | | 31.4 | | 26.3 | | 22.6 | | * 13.3 | |
| 受容的態度 | 受け入れの態度 | 28.6 | 63.7 | 31.4 | 45.0 | * 34.5 | 56.1 | 22.0 | 37.3 | 16.0 | 69.4 |
| | 引き受けの態度 | * 35.1 | | * 13.6 | | 21.6 | | * 15.3 | | * 53.4 | |

＊（t＜0.01）
単位％

引き受けの態度が15.3％と低く有意差を認めた。

受け入れの態度が22％と低い。

受容の段階；全体的に受容的態度が69.4％と高い。

引き受けの態度が53.4％と高く有意差を認めた。

あきらめの態度が13.3％と低く有意差を認めた。

逃げの態度が17.3％，受け入れの態度が16.0％と低い。

## Ⅵ．考　察

### 1．希望の段階

看護婦の受容的態度が63.7％と高いのは，看護婦が患者の希望を支えようとする努力の現れであり，接する態度には「治ればいいですね。」といった看護婦の真の気持ちが込められている。迫りくる死を患者と同じ平面に立って関わりあっていると思われる。しかし，逃げの態度が23.7％であることから，患者の死が確実に近づいているのを感じながら，患者の希望を支えなければならない困難さが現れていると思われる。

医学的に絶望的な状態であっても，患者は最後まで回復への希望を持っている。看護婦はたとえどのような小さな希望でも支える努力をしなければならない。そうすることが患者の生を支えることになる。

### 2．不安の段階

看護婦の引き受けの態度が13.6％と低いのは，看護婦は，患者との関わりの中で感情を共にするときエネルギーを大いに消耗し疲れそしてなるべく関わりたくないと思う。そのため，疾病や死について語り合うことを拒否したり，恐がったりする。その結果，患者の不安に対応しきれなくなり，非受容的態度として現れてきていると思われる。

患者は病気の正体について考え，死への恐怖について考える。患者が不安を抱きそれに耐えきれず自分の病状について看護婦に尋ねる場合，答として返ってこなかったり曖昧な返事しか返ってこないと患者にはいらだちや怒りがおこってくる。そのため対応には看護婦の細心の注意が必要とされるが戸惑いや，対応・対処の不統一により看護婦の態度にばらつきがでていると思われる。

### 3．怒りの段階

看護婦の受容的態度が56.1％と高いのは，患者の怒りの理由を理解した上で，患者の必要としているコミュニケーションを遮断することなく話を聞いたり，ケアをしたりし，人間関係を良くしているためと思われる。

患者は，いっこうによくならない病状や現状をどのように受けとめたら良いのか冷静に判断できないいらだちを看護婦に訴えてくる。それに対し看護婦は，個人的に反応（悲しそう，涙ぐむ，罪悪感，恥ずかしそう）し，接する時間を短くしたり，無意味な反応しかしないと，患者の不快感と怒りを募らせるだけである。

### 4．抑鬱の段階

看護婦の非受容的態度が62.7％と高いのは，看護婦は，患者が黙っているから，訴えがないから，キュアを優先し，ケアに時間をさくことが少ない，またよりよい死を迎えるための看護婦のカウンセリング技術が未熟であると思われる。

患者からの不安や質問が聞かれなくなるため，対応が困難となり，看護婦のほうから，面会を避けようとしたり，抑鬱の原因となっているものに触れないようになる傾向にある。患者を十分に理解していれば，その原因を探り出し，少しでも不安を軽くしてあげることができる。患者の要求の理解を十分に行いスキンケアをしたり黙ってそばに座り，時間を共有することが大切である。

### 5．受容の段階

プライマリーケアが進む中で，受容的態度

が高値を示すことは，有意義なことである。

看護婦の引き受けの態度が53.4%と特に高いのは，患者の態度や表情が温和になり，接しやすく，話やすくなり，処置を受け入れてもらいやすくなるためである。そして，その段階に至るまでのケアの中で，深い信頼関係ができ，患者に対する偽りがなくなり，患者の人生に関わったと確信できる状態にあるためと思われる。

患者が，自分の生命の終わりを，静かに見守っている時期である。患者は，疲れ衰弱し，うとうとまどろみがちとなり，一人きりにされたいと望む。患者と看取る者との間には，平等な人間として関わることや，看取る者も，やがて同じ立場に立つべき存在であることを，悟ることが大切である。

## 結　　語

1．患者の不安，抑鬱の段階に，非受容的態度が，過半数を越えていることから患者と共に死を見つめ，患者と平等な人間としてかかわり合うという，ターミナルケアに携わる者が持たねばならない基本的姿勢が，不十分であると言える。

2．患者の希望，怒りの段階に受容的態度が，過半数を越えていることから，看護婦の配慮的人間関係（患者の気持ちや感情に合わせる）が形成されていると言える。

3．患者の受容の段階に引き受けの態度が53.4%と高い結果となった。看護婦が，継続した看護を通して，患者と理解しあい，受容できることは，看護の方針をしっかり示し，責任ある看護ができていると言える。

ターミナル患者に対する看護婦の態度について述べてきた。私たちは，死を迎える患者の心の揺れを受けとめ，欲求を満たすことの難しさを研究を通して実感できた。看護婦が，患者の心理段階に対応できるように，各々の段階の理解を十分にし，患者の心理変化に応じたタイムリーなケースカンファレンスを行い，要求に答えられる統一された看護をしていきたい。

## 引用，参考文献


① E・キューブラー・ロス：死ぬ瞬間（死にゆく人々との対話）読売新聞社，訳　川口正吉，1971．p 87.

② 柏木哲夫：死にゆく人々のケア，医学書院，1978.

③ 柏木哲夫：生と死を支える，朝日新聞社，1987.

④ 高橋穏世：青い地平線，日本看護協会出版会，1993.

⑤ 金子光，小林富美栄：成人看護学総論，医学書院，1968.

＜資料１＞　患者の心理段階（死にゆく過程の５つの心理的段階）

１．希　望・・・生きることへの希望，知りたいという希望。

２．不　安・・・病状や，死に対する不安，家族への心残り。

３．怒　り・・・痛みによるいらだち，医療者不信，身体が不自由になった自分自身への怒り。

４．抑　鬱・・・身体機能，経済的立場の喪失と親類との別れへの悲嘆による絶望的状態。

５．受　容・・・静かな気持ちで死を待つことができる。うとうとまどろみ周囲に関心が薄れていく状態。

＜資料２＞　死にゆく患者に対する看護婦の４つの態度

１．逃げの態度・・・否定的態度
２．あきらめの態度・・・消極的態度
　　非受容的態度

３．受け入れの態度・・・積極的態度
４．引き受けの態度・・・更に積極的態度
　　受容的態度